

歯周病罹患率80%を
歯科衛生士の私たちが
変えていく!

Goodbye
Perio Project

医院の中でも外でも活躍できる! それが歯科衛生士だと実感しています

Goodbye Perioプロジェクトのメンバーになって以来、
歯科衛生士としてのモチベーションや
責任感がさらに高まったという根本瑠美さん。
うまくいかなかった苦い経験も前向きにとらえ、
次の活動の糧にしています。
熱意あふれる今の取り組みについてお話を聞きました。

イベントを企画するだけでなく、
伝える環境を整える
大切さに気づきました

「日本の歯周病罹患率を下げる」。Goodbye Perioプロジェクトの目的を知ったとき「そうだ、私たちが動くべきだ!」と思いました。日頃から患者さんの口腔内を診るなかで、歯周病の人が

前に進まないのです。連絡がスムーズに取れず、日にも決まりません。いろいろ準備を始めていた私は、結局その場のノリだったのかなとガッカリしました。

そこで気づいたのは、「歯科医院は、いかに伝える環境が整っているか」ということ! 医院の外で活動するには、声をかけて人を集めるところからスタートしなければなりません。でも歯科医院の場合は、患者さんが自ら足を運び、耳を傾けてくれるんです。まずは来院する患者さんたちに歯周病予防の大切さをしっかり伝えようと思うようになりました。

「活動すること」ではなく、
「成果を出すこと」を目指します!

患者さんには今、歯肉縁下をケアする必要性をなるべく自然に感じてもらうよう工夫しています。たとえば縁下に通したフロスのおいをかいてもらったり、フロスをした後のツルツル感やスッキリ感を体感してもらったり患者さんから「フロスってどういうもの?」と質問があつてから、使い方や歯周病予防につながることを伝えていきます。習慣にする人は、確実に増えていますよ!

こうした患者さんの姿を見るたび、

いかに多いかを実感してはいたんです。予防のプロとしてもっとしっかり発信していかなければ、と気が引き締まりましたね。

身近なところで何かできることは、と考えるなかで思いついたのが、行きつけの美容院での啓蒙活動。担当の美容師さんにグッペリについて話すと「いいね! スタッフたちに伝えよう」と盛り上がりました。ところがその後、話が

私たちの活動はただ「フロスを習慣にしましょう」と呼びかけるのでは不十分だと感じます。「どうして歯肉縁下のケアが必要なのか」をきちんと伝えたり、モチベーションを上げる努力をしてはじめて成功するのだと思い知らされたんです。美容師さんにお話ししたときは、その部分が足りなかったのかもしれないね。この気づきを次に活かすつもりです。

先日、ある尊敬する女性へ取り組みについて話したところ、「すごくいい活動だね!」と褒めてくださいました。歯科衛生士としての役割をちゃんと果たせている。そう実感できて、心からうれしかったです。医院の中でも外でも、確実に成果につながる活動を続けていこうと改めて心に誓いました。



“伝える力”をつけるため、同じ広島県のDHで集まって定期的に情報交換をしています!

自分の地域の歯科衛生士たちとつながれる!
あなたもGoodbye Perioプロジェクトのメンバーになりませんか?

「日本から歯周病の人をなくしたい」そんな想いを持った歯科衛生士が集まるこのプロジェクト。
地域ごとのミーティングも活発化! 一緒にイベントを企画するなかで、強い絆が生まれています。

登録は <http://perio.tuftclub.jp> で!

歯科衛生士(臨床歴6年)
根本 瑠美さん